　社　会　科(地理的分野)　学　習　指　導　案

１　単元名

　「ヨーロッパ」　帝国書院「高校生の地理Ａ」

２　単元の目標

　　ヨーロッパにおける諸課題について、自然環境や産業、文化等の現状を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深める。

３　単元の評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ア　関心・意欲・態度 | イ　思考・判断・表現 | ウ　資料活用の技能 | エ　知識・理解 |
| ①ヨーロッパにおける諸事象について関心をもち、意欲的に調べようとしている。  ②ヨーロッパの諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察しようとしている。 | ①ヨーロッパに関する社会的事象から、中心的な問いを設定している。  ②ヨーロッパの諸課題について、自然環境や産業、文化等の現状を踏まえて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 | ①諸資料から、ヨーロッパの地球的課題や地域的特色に関する情報を読み取っている。  ②読み取った複数の情報から、分かることを分析している。 | ①ヨーロッパの地球的課題や地域的特色について理解している。  ②現代世界の地理的認識を深めている。 |

４　単元の指導計画（全６時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ・学習活動 | ○評価　・留意点 |
| 第１時 | ・社会的事象からヨーロッパについて関心をもつ。  ・生徒の疑問から、本単元における中心的な問いを見いだす。  なぜＥＵは、現在のような形で統合したのか  ・中心的な問いに対する予想をもち、予想を検証するための学習計画を立てる。 | ○ア①  ○イ① |
| 第２時 | ・ヨーロッパの自然について調べる。  ・産業や人々の生活と、自然環境とのかかわりについて考えをもつ。 | ○ウ①  ○エ① |
| 第３時 | ・ヨーロッパの農業について、自然条件と関連付けて調べる。  ・農業の面から、ＥＵ統合についてのメリット・デメリットにはどのようなものがあるか考察し、まとめる。 | ○ウ①  ○エ① |
| 第４時 | ・ヨーロッパの工業について、自然条件と関連付けて調べる。  工業の面から、ＥＵ統合についてのメリット・デメリットにはどのようなものがあるか考察し、まとめる。 | ○ウ①  ○エ① |
| 第５時 | ・ヨーロッパの宗教と文化について、自然条件と関連付けて調べる。  ・宗教と文化の面から、ＥＵ統合についてのメリット・デメリットにはどのようなものがあるか考察し、まとめる。 | ○ウ②  ○エ② |
| 第６時 | ・本単元における中心的な問いに対して考えをもつ。  ・第１時の予想と比較したり、学級内で考えを共有したり、議論したりして、考えを整理・深化する。  中心的な問い「なぜＥＵは、現在のような形で統合したのか」に対する考えのまとめの例  　ＥＵの統合はヨーロッパの人々が、統合について考えたときに、その当時よりも「安定した生活」と「自国の発展」を求めた結果であると考える。  地域には、それがもつ地理的な理由に基づいた、よりよい姿が求められている。地域の文化や宗教、農業や工業といった、複数の要素に基づいて考えたとき、ＥＵとして統合することのメリットとデメリットが存在することが分かった。ヨーロッパの人々は、ＥＵとして統合することの是非や、自国の加盟や脱退について考えたとき、このメリットとデメリットについて考えているのだと思う。 | ○イ②  ○ア② |

５　単元における「分かり方の特性」に応じた指導・支援のポイント

　教育庁指導部特別支援教育指導課が作成した「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」（平成30年）の「通常の行動チェックリスト」及び、平成28年度東京都教職員研修センター教育課題研究「子供一人一人の『分かり方の特性』を生かした指導法に関する研究」指導資料「児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのチェックリスト」を用いて生徒一人一人の得意な処理の傾向を把握し、それぞれの得意な傾向に合わせた指導を行うことで、生徒の理解度の向上を図る。

　なお、生徒一人一人の「分かり方の特性」はいずれかの得意な傾向に依存するものではなく、どの特性がより優位であるかを示すものであるため、いずれかの傾向に傾倒しないようにすることが重要である。

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導・支援の工夫

|  |
| --- |
| 継次処理能力優位を生かした授業の展開 |
| ・自然環境、産業、文化等を順次取り上げていくが、前時の内容を踏まえつつ新たな視点を付け加えて社会的事象同士の関連を理解できるようにする。 |
| 同時処理能力優位を生かした授業の展開 |
| ・第１時において、生徒に単元で中心的に取り上げる社会的事象(本指導案ではＥＵ) に対して疑問をもたせ、それらを整理して単元の中心的な問いとして設定する。その問いに対する予想や仮説を設定し、検証することを生徒に認識させることで単元の見通しをもたせる。 |

(2) 情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

|  |  |
| --- | --- |
| 聴覚優位 | 言語視覚優位 |
| ○文書資料をと見取らせる際に、唇を動かして読ませる。  ○濁音、半濁音、拗音をはっきりと発音し、理解させる。  ○ペア又はグループで話し合う。 | ○資料を読み取らせる際に、難読語の読みを確認させる。  ○資料中の重要語句や数値を丸で囲ませたり、キーワードを箇条書きにしたりする。  ○グループワークの際の視点を文字で表す。 |
| 象形視覚優位 | 体感覚優位 |
| ○考える項目について図式化して提示する。  ○ＩＣＴ機器を用いて、既習事項や授業内容に関する写真や映像を提示する。  ○学習で使うワークシートを、思考しやすくするように図式化する | ○ペア又はグループで話し合う。  ○資料中の重要語に線を引いたり書き出させたりしたものを基に、話合い活動を行う。  ○まとめや振り返りを記述させる際に、自分で理解の手掛かりとなる教材や資料を選択できるようにする。 |

(3) 読み書きアセスメントの結果を踏まえた指導の手だて

　　 事前に実施した「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」の問題を、読解に関連する問と漢字の知識に関連する問とに分類し、それぞれの正答率を基に生徒をＡ領域からＤ領域の４領域に分類した。

|  |  |
| --- | --- |
| 領域名 | 分類条件及び傾向 |
| Ａ領域 | 読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50％以上である生徒 |
| Ｂ領域 | 読解に関連する問題の正答率は50％以上であるものの、漢字の知識に関連する問の正答率が50％未満である生徒 |
| Ｃ領域 | 漢字の知識に関連する問の正答率は50％以上であるものの、読解に関連する問の正答率が50％未満である生徒 |
| Ｄ領域 | 読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50％未満である生徒 |

読み書きアセスメントの結果を基に、以下の指導の手だてを学級の傾向に応じて組み合わせることで、基礎的な学力の向上を図る。

　　ア　Ｂ領域の生徒に対する指導の手だて

　　　(ｱ) 語句の意味表を活用し、語彙力及び漢字の読み書きの能力や、学習した語句を適切に使用する力の向上を図る。

　　　(ｲ) 資料の読み取りや説明の際、中学校程度の基本的な語を、指導者が平易な言葉に言い換えて意味を確認しながら行うことで、基本的な語彙力の向上を図る。

　　イ　Ｃ領域の生徒に対する指導の手だて

　　　(ｱ) 教科書等の文書資料や板書にある接続語に注目し、その意味や使い方、指示語の指示内容を丁寧に確認しながら学習活動を行うことで、文と文のつながりや資料から読み取った内容のつながりを意識して読む態度を養う。

(ｲ) 調べたことを図式化したり、板書を構造化したりする際に、図中で使用する矢印や色の意味を明示し、情報と情報のつながりを理解する力の向上を図る。

　　これらの手だてに加え、通常の行動チェックリスト及び児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのチェックリストの結果を用いて、生徒一人一人傾向に合わせてペアワークやグループ学習の編成を工夫したり、指導の手だてを工夫したりする。

６　本時の展開（全６時間中の第１時）

　　本時の目標：ヨーロッパに関して中心的な問いを設定し、学習に見通しをもつことができる。

※〔同〕は同時処理能力優位、〔継〕は継次処理能力優位、〔聴〕は聴覚優位、〔言〕は言語視覚優位、〔象〕は象形視覚優位、〔体〕は体感覚優位をそれぞれ表し、それぞれの生徒に合わせた指導上の工夫である。

また、《　》は読み書き達成テスト結果におけるＡ～Ｄ領域の生徒に合わせた指導上の工夫を表す。さらに、　　　は各ＷＧの取組と関連の深い活動及び留意点を表す。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  まとめ | ○ヨーロッパの既習事項（中学校の地理的分野の学習）の想起  ・思い付くことをワークシート　の「ヨーロッパについて、これまで習ったこと」に記入し、発表する。  【予想される意見】  　キリスト教、偏西風、運河（国際河川）、地中海式農業、自動車工業、観光、ＥＵなど  ○ＥＵ（ヨーロッパの統合）の特色についての考察  ・教科書P100、101を読み、３～４人のグループで話し合い、出た意見をワークシートの「ＥＵの特色」に書き、発表する。  【予想される意見】  　パスポートがいらない、関税がない、ユーロ（共通通貨）など  〇「国」を定義の理解とＥＵとの比較における諸要素の考察  ・「国」を規定する要素として考　えられることを挙げ、ＥＵにあてはまるか、比較対象として日本も取り上げあてはまるかを発表する。（※板書計画参照）  ・ＥＵと「国」の共通点、相違点を知る。  ＜グループ学習＞  ○ＥＵが「国」でない理由（事実）の考察  ・複数人のグループで話し合い、出た意見をホワイトボードなどに書き出し、発表する。  【予想される意見】  　そもそも国が存在している、人種・民族が同じ・異なる、言語が同じ・異なる、非加盟国やイギリスのＥＵ離脱など  ○単元の中心的な問いの設定  **単元の中心的な問い　なぜＥＵは、現在のような形で統合したのか**  ○中心的な問いに対する、予想や疑問等の考察  ・自分で考え、ワークシートに記録する。  ＜グループ学習＞  ○自分の問いを設定する。  ・中心的な問いに対する自分の意見と関連させて設定する。  ・決定したらワークシートに記　録する。  【期待する意見の視点】  　・なぜ一つの国にならなかっ　たのか。  　・なぜ一つの国になれなかっ　たのか。  　・一つの国にならないメリッ　トは何か。  　・一つの国になるデメリット　は何か。  　・なぜ加盟する国としない国　があるのか。  〇次時以降の見通しをもつ。  ・「統合」の手がかりを考え、次　時の学習内容を知る。  【予想される意見】  　お金（産業や貿易）、言語（英語）、宗教（キリスト教）、地続き（土地がつながっている） | ・本単元に興味をもつ　ための活動であるため、生徒の興味に任せた発表を認める。  ・「ＥＵ」が出たら、そ　れを取り上げ、「ＥＵの特色は何か」という発問につなげる。  ・話し合いが活発に進　まない場合には、教科書p.100、p.101を提示し、ＥＵの特色を見付けられるようにする。  ・ホワイトボードなど　を活用してもよい。  ・グループの意見を受　けて、「ＥＵはまるで一つの国のようであるが、国ではないのか」という発問をする。  ・「国」を規定する要素　として考えられることを問いかけ、出た意見を板書する。  【教員が準備しておく  　予備知識】  　国の定義：  　　住民、領土、主権  ・まるで一つの国のよ　うであるＥＵの特色を受けて、「ＥＵが国でない理由は何か」という発問をする。  ・【予想される意見】が、「国」においても同様である場合があることに気付くよう、具体例を出しながら机間指導を行う。  ・出た意見を生かして、「なぜＥＵは『国』という形ではなく、『統合』という形を選択したのか」といった主旨の問いを生徒と共に設定する。  ・自分の意見をもって、本単元の学習に主体的に臨めるよう、机間指導する。  ・中心的な問いに対す　る自分の意見から自分の問いを設定することで、学習のねらいから逸脱しないものにする。  ・自分の意見や自分の　問いを次時以降の学習と関連付けていくよう伝える。  ・「何が分かったらＥＵが一つの国にならず『統合』を選んだ手がかりになるか」という発問をする。  ・「地続きであること」　が出るよう発問の仕方を工夫し、出たら次時の学習につながることを告げる。 | 〔聴〕級友の発表に付け加　えて発表することを認める。  〔言・象〕想起のきっかけに、地図帳やタブレット端末を活用する（地名や国の位置などを見る）。  〔聴〕話し合いの中で出た　級友の意見を聞いて、自分の意見をもてるようにする。  〔体〕教科書、資料集、地図帳など、自分の意見をもつために活用できる教材を選択するよう促す。  〔言〕教科書から特色と思われる言葉を探すよう指導する。  〔象〕教科書の地図や写真　に着目するよう促す。  〔体〕意見を発表するよう促す。  〔言・象〕要素や出た意見を整理して板書する。  〔継〕要素からＥＵと国の　共通点・相違点を考えるよう促す。  なぜ一つの国にならなかったのか、どういうところが国のようで、どういうところが独立しているのか、国のようにしたメリットは？一つの国になるデメリットは？  〔同〕ＥＵの特色を要素に　照らし合わせて考えるよう促す。  ＜役割分担を明確にした話し合い活動＞  ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。  ・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。  ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認する。  《Ｂ》「統合」を平易な言葉に言い換えて、意味を捉えられるようにする。  【例】  　一緒：通貨を一緒にする、一緒の言語（英語）  　まとめる：国境をまとめる  〔聴〕大切であると思った　言葉や文を口頭で確認する。  〔言〕大切であると思った　ことは確実にワークシートに記録するよう促す。  〔象〕ベン図のような図示　による記録も認める。  〔体〕隣席の級友と意見を　交流する。  【例】  　「わざわざ統合したということは、何かいいことがあるのかもしれない。お金かな。外交かな。」  ＜役割分担を明確にした話し合い活動＞  ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。  ・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。  ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認する。 | ア－①  （観察、発表）  ア－①  （観察、発表）  イ－①  （ワークシート） |

７　本時の展開（全６時間中の第２時）

　　本時の目標：ＥＵ結合の背景を知るために、背景の一つであるヨーロッパの自然環境について、調べてまとめる。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  まとめ  まとめ | 〇前時の活動の振り返り  〇中心的な問いの解決に向けた本時の問いの確認  ・多数の国同士が統合するために有利な条件を前時の内容から確認する。  〇ヨーロッパの自然環境とＥＵ統合の背景の関連への理解  ・教科書P92、93を読み、地図帳を活用して、ヨーロッパがどこに位置しているのか地図上で確認する。  ・ヨーロッパの地形と気候について調べ、人々の生活について自分の考えをワークシートの「学習内容」に書く。  ＜グループ学習＞  ・ワークシートに書いた意見をグループで共有し、自然環境の特徴を統合する。  【生徒の考えの統合例】  ＥＵとして見ると、アルプス山脈を境に北側が西岸海洋気候、南側が地中海性に分かれる。  北部は国際河川を中心として農業や工業が発達した。対して、南部は地中海の地形と気候を生かしたリゾート業が発達し、観光地も多い。  〇ヨーロッパの国々の気候に基づき、産業の発展とＥＵ統合のメリットについて考察する。  ・自身の考えを生徒同士で伝え合うことで交流を図る。  ・国単位で見るよりも、ＥＵとして見るた場合、一つの地域に工業、農業、漁業、観光業等様々な業種が存在することとなり、単業種への経済的依存度が下がる。さらに、国家間の関税を撤廃することにより、物品の流通量が増加する。また、通貨、パスポートの共通化によって、より広い地域からの労働力、観光客の流動が期待でき、メリットが大きい。  〇本時の振り返り  ・何を学んだのか、どのように学んだのか、次に学習することをワークシートに書く。 | ・ＥＵは国のような法、欧州旗、共通通貨、移動の自由をもっていることをワークシートや教科書ｐ100、ｐ101等から確認するよう促す。  ・「陸続き」が生徒から出るよう工夫する。  ・中心的な問いの解決に向けて、ＥＵ統合の背景の一つであるヨーロッパの地形について学ぶ必要性を伝える。  ・白地図を配布し、地図帳を参考に、海流、風、山脈、河川等を記入する。  ・周囲の友達と話し合いながら書いてもよいことを伝える。  ・多様な地形や高緯度のわりに冬が温暖な気候に注目するようにし、観光地が多いことに気付くよう指導する。  ・ＥＵ統合において、ヨーロッパの地理的環境はメリットであることに気付かせ、地理的環境を生かした農業を学ぶことにつなげていく。  ・次時はヨーロッパの農業について学習することを確認する。 | 本時の問いを導くために  〔同〕地図帳を用いて、ヨーロッパと日本を重ねて比較　し、ヨーロッパが陸続きであることや、高緯度であることに気付くようにする。  〔継〕国同士の統合の条件を考えることで、背景を知るために必要である自然環境につなげていく。  〔言・体〕ペア・グループでの話し合いや発表  ヨーロッパの地形や気候は、ＥＵ統合にどのようなメリットがあるだろうか（本時の問い）  学習を進めるために  〔継〕本時の学習の流れを示す。  〔同・言〕本時の学習事項を具体的に示す。  地理情報の理解のために  〔聴〕地図で示された情報を音声で表す。  〔言〕ヨーロッパの地形が分かるワークシートを、黒板に明示する。  〔象〕ＩＣＴ機器等を活用し、絵や図などの情報を取り入れる。  〔体〕ペアやグループで学習に取り組んでもよいことを伝える。  《Ｂ》地理的な用語や一般語をまとめた語句の意味表を活用する。  《Ｃ》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。  ＜役割分担を明確にした話し合い活動＞  ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。  ・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。  ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認する。  〔聴〕伝え合いを通して、意見を出すよう指導する。  〔象〕特色や出た意見を整理して板書する。 | ア－①  単元の中心的な問いに関連させて、本時の問いを導き出そうとしている。  （観察、発表）  ウ－①・②  ヨーロッパの自然環境についての情報を読み取り、ＥＵ統合と関連することを分析している。  （観察、ワークシート）  エ－①  ヨーロッパの自然環境の特色について理解している。  （観察、ワークシート、ノート） |

８　本時の展開（全６時間中の第３時）

　　本時の目標： ヨーロッパの気候と食、農業の関連について調べてまとめる。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  まとめ | 〇本時の学習課題の確認  ・ヨーロッパの食事や農業について、知っていることを発表する。  【予想される回答】  ピザ、パスタ、ワイン、オリーブ、レモン（南部）  じゃがいも、ソーセージ（北部、東部等）  チーズ（各地）  〇ヨーロッパの農業の特色の理解  ・教科書ｐ97の地図及び記述と前時までの学習とを関連させて、地中海式農業、酪農、混合農業の三点について気候、地形、主要な農作物の各観点から、それぞれの特徴を確認し、ノートに記入する。  ＜グループ学習＞  〇本時の問いについての考察  ・教科書ｐ97の地図及び記述と前時までの学習とを関連させて、ヨーロッパの農業において、ＥＵの統合はどのようなメリット・デメリットがあるかを考え、ノートにまとめる。個人で調べたものを基に小グループで話し合い、グループで共有する。グループとしての回答をまとめ、学級全体で共有して自身の回答を修正する。  【期待する回答】  各地の様々な農産物が、関税がかからずに流通できるので安く流通し、市場が安定しやすいというメリットがある一方で、農産物の価格を自国だけで決定できないことや、自国の利益だけを追求できないことなどのデメリットも存在する。  ・本時の問いについて考えたことと振り返りをワークシートにまとめる。 | ・回答から、どのような気候であるかや、どのような農業が営まれていると考えるかを含めて発言するよう指導する。  ・教科書p.96、p.97の写真を発言の補助とさせる。  ・ＩＣＴ端末、教科書、地図帳を使用して、調べ学習ができるように環境を整える。  ・周囲の友達と話し合いながら書いてもよいことを伝える。  ・混合農業の記述には、必ず「ドイツ」を記述する。（次時に使用）  ・学習内容の深化のために、共通農業政策（ＣＡＰ）やシェンゲン協定等を関連させてもよい。  ・ＥＵ加盟国一覧（外務省）等を参照してもよいことを伝える。  https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/map\_00.html  ・ノートにまとめることに困った時に使える手段を確認する。  ①教員と相談する。  ②友達と相談する。  ③教科書で調べる。  ④資料集で調べる。  ⑤教師の作成したプリントで調べる。  ⑥掲示物で調べる。  ⑦ウェブページで調べる。  ⑧ホワイトボードを使って話し合う。  ・次時はヨーロッパの工業について学習することを確認する。 | 〔同〕本単元の学習内容がヨーロッパとＥＵの統合であること、それに関連して本時は農業を学習することを伝える。  〔継〕本日の学習内容として、農業の種類、ＥＵ統合について等小見出しを板書する。  ヨーロッパの農業において、ＥＵの統合はどのようなメリット・デメリットがあるだろうか（本時の問い）  〔象〕ＩＣＴ端末や地図帳等を用いて写真や図、動画などで視覚的な支援を行う。  〔聴〕地図で示された情報を音声でも確認できるよう配慮する。  ＜役割分担を明確にした話し合い活動＞  ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。  ・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。  ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認する。  〔象〕ＩＣＴ端末を用いて写真や図、動画などで視覚的な支援を行う。  〔聴・体〕  話し合いを通して、意見を出すよう指導する。  〔言・象〕  特色や出た意見を整理して板書する。  《Ｂ》地理的な用語や一般語で意味の分からないものは、ＩＣＴ機器等を用いて調べるよう指導する。  《Ｃ》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。 | ウ－①  （観察・ノート）  エ－①  （観察・ワークシート） |

９　本時の展開（全６時間中の第４時）

　　本時の目標：各国の工業の特徴を地理的条件と併せて学び、ＥＵの統合に与える影響を考察する。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  まとめ | 〇本時の学習課題の確認  ・ヨーロッパの工業について、知っていることを発表する。  【最低限出してほしい回答】  皮革製品、自動車産業  ・歴史的な背景や、時計産業に代表されるような職人保護政策等を示してもよいが、参考程度にとどめておく。  〇ヨーロッパの工業の特色の理解  ・教科書ｐ99の地図及び記述と前時までの学習とを関連させて、イタリア中北部、ドイツ、ロッテルダムやマルセイユの三点について気候、地形、主要な工業製品の三つの観点から、それぞれの特徴を確認し、ノートに記入する。  ＜グループ学習＞  〇ＥＵにおけるドイツの存在感  ・農業、工業と２時続けて特徴的であったドイツは、ＥＵにおいてどのような存在と考えられるか、グループで話し合い、学級で共有する。  【期待する回答】  農業、工業がさかんなドイツは、ＥＵ諸国の中でも経済的な規模が大きい国なのではないか。  ＜グループ学習＞  〇ＥＵ統合が工業に与える影響の考察  ・ｐ99の記述を読み、業製品を複数の国で作る場合のメリット、デメリットを考えてグループで話し合い、学級で共有する。  ・ＥＵ統合が工業に与えた影響を学び、本時の学習を整理する。  〇本時の学びの振り返り  ・中心的な問いに対する現時点での自分なりの答えをワークシートに書く。 | ・ｐ98を参照させてもよい。  ・皮革製品は酪農と関係がある。また、自動車産業は、広大な平地が重工業の用地に適していることなどにつなげる。  ヨーロッパの工業において、ＥＵの統合はどのようなメリット・デメリットがあるだろうか（本時の問い）  ・ドイツが前時の農業にも出てきたことに注目するよう指導する。  ・ＥＵ諸国におけるＧＤ  　Ｐの比較等から、ＥＵにおいて、ドイツの経済が大きな割合を占めていることを確認する。  参考：対ＥＵ経済関係資料ｐ17（外務省）  ・各グループの意見は黒板に残し、後の活動の資料とする。  ・前回の授業を振り返らせることで、「関税とは何か」「為替市場の役割」などについても触れて解説する。  ・各グループの意見を検証する形で、ＥＵ統合が工業に与えた影響の現状を学ぶ。  ・実際の事例を挙げて、具体的に説明する。  ・ＥＵ統合にはメリット、デメリットどちらもあるが、それを自分なりの考えで判断するよう促す。 | 〔同〕本単元の学習内容がヨーロッパとＥＵの統合であること、それに関連して本時は工業を学習することを伝える。  〔継〕本日の学習内容として工業の種類、ＥＵ統合について等小見出しを板書する。  〔象〕ＩＣＴ端末や地図帳等を用いて写真や図、動画などで視覚的な支援を行う。  〔聴〕地図で示された情報を音声でも確認できるよう配慮する。  ＜役割分担を明確にした話し合い活動＞  ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。  ・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。  ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認する。  〔言〕出された意見を黒板に書き出す。  〔聴〕意見を黒板に書き出す際に、読み上げながら書く。  〔象〕黒板の意見を書き出す場所をメリット・デメリットごとに区画分けして、比較しやすくする。  《Ｂ》地理的な用語や一般語で意味の分からないものは、ＩＣＴ機器等を用いて調べるよう指導する。  《Ｃ》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。  〔象〕地図を画面に映し、連携している地域を画面にマーカーをするなどして視覚的に捉えられるようにする。  〔言〕板書を読み返し、これまで考えたこと、学んだことを振り返るよう指示する。  〔聴〕教師が板書の概要を読み上げる。その後自分の考えを書くよう指示する。 | ア①（観察・ノート）  エ①  （ワークシート）  中心的な問いに対する自分の回答を、本時で学んだ工業における社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて記録できているか。 |

１０　本時の展開（全６時間中の第５時）

　　本時の目標：ヨーロッパの文化にＥＵの統合が与えた影響について理解を深める。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 〇学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  まとめ | 〇本時の学習課題の確認  ・クリスマスマーケットの写真を見て気が付いたことを発表する。  【最低限の回答】  ・市場のようであること。  ・教会があること  ・ヨーロッパの音楽、文学、思想に注目し共通点や相違点を考える。    【期待する回答】  ・ベートーベンやモーツァルトなどがヨーロッパの音楽家では有名であること。  ・日本の音楽とはリズムや雰囲気が異なること。  〇ヨーロッパの宗教と言語の関わりの理解  ・P94、P95を読み、キリスト教と生活が密接にかかわっていること、またキリスト教にはプロテスタント、カトリック、正教会という三つの宗派があり、言語も大きく三つに分けることができることを知る。  〇ヨーロッパの文化の広がりについての考察  ・世界中にキリスト教と深く結びついた文化があることは、産業革命を背景とした大規模な植民地支配が影響していることを理解する。  〇本時の問いについての考察  ＜グループ学習＞  ・グループで考えを深める。    〇本時の問いについての振り返り  ・自分の言葉で考えを修正する。 | ・遠景だけではなく、近景の写真も用意する。  ・楽曲の特徴に注目するよう指導する。ＥＵ統合前から共通点が多いことに触れる。  ・地図を掲示し、宗派と言語の分布が分かるようにする。  ・宗教の違いによる戦争に触れた意見が出たときには、単元の問いに着目する。  ・産業革命に関わる画像を用意する。  ・世界の国旗において、イギリスの旗が描かれた国旗に注目し、地図で場所を確認する。  ・個人が使うことができるタブレット等を用意する。  ・宗教、言語、歴史のどの側面を調べてもよいことにする。 | 〔象〕ＩＣＴ等を用いて写真や動画等で表す。  〔言〕学習課題をカードや板書で明示する。  〔聴〕音楽ＣＤを用いてヨーロッパと日本の違いや、ヨーロッパの中の共通点に気付くよう指導する。  ＥＵの統合は、ヨーロッパの文化にどのような影響をあたえたのか（本時の問い）  キリスト教宗派と言語の関連について理解するために  〔象〕ＩＣＴ等を用いて写真や図、動画等で表す。  〔言〕宗教や言語の種類を短冊で用意し、掲示する。  〔聴〕新出語は繰り返し言葉に発して聞かせる。  〔象〕ＩＣＴ等を用いて写真や図、動画等で表す。  〔体〕イギリスやニュージーランドの国旗を見せる。  ＜役割分担を明確にした話し合い活動＞  ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。  ・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。  ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認する。 | ウー②  本時の問いに正対して、調べている。（ワークシート）  エー②  考えをまとめている。（ワークシート） |

１１　本時の展開（全６時間中の第６時）

　　本時の目標：これまでの学習を基にして、中心的な問いに対する自分の考えをまとめる。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  まとめ | ○中心的な問いの確認  ○既習事項の振り返り  ・第１時から第５までの学習内容の関係性をノートにまとめる。  【期待される回答】  農業や工業の学習では、メリット・デメリットについてについて学んだ。そのメリット・デメリットには、共通点もあった。  ＜グループ学習＞  ○中心的な問いについて考えをまとめる。  ・先の発問で得られた回答を基に、ＥＵ各国の統合によるメリット・デメリットはどのようなものかを考え、小グループで話し合い、グループで共有する。グループとしての回答をまとめる。    ○ＥＵの今後について、自分の考えをもつ。  ・新たな資料（イギリスの脱退ニュース記事）を基に、ＥＵの今後について、自分の考えをまとめる。  ・イギリスは戻った方がよいのではないか。  ・イギリスは戻る必要はない。自国のことを考えると、他の国も参加の仕方を検討してもよいのではないか。 | なぜＥＵは、現在のような形で統合したのか  ・これまでの学習内容を掲示するなど、必要に応じて、生徒が既習内容を想起できるようにしておく。  ・関税撤廃、物の移動、人の移動について、それぞれメリットとデメリットを挙げさせることで「共通点」を導けるようにする。  指導者の発問  「メリット・デメリットの判断は、誰が、何を基準にしているといえるだろうか。」  ・考えのきっかけとなるキーワードを発表させ、学級全体で中心的な問いに対する考えをまとめる。  ・自分はイギリスの脱退について肯定的な意見をもつのか、否定的な意見をもつのかを明確にし、その理由を考えさせることで、考えのまとめ方を指導する。 | 《Ｃ》板書を構造化する際に、図中で使用する矢印や色の意味を明示し、情報と情報のつながりを理解できるよう指導する。  〔象〕既習事項を図式化し、資料化しておく。その際、矢印の凡例を明示するなど、記号の意味を明確にしておく。  〔言・象〕  発表者のノートやワークシートを撮影し、プロジェクタ等に投影する。  〔体〕自分の考えを記述させる際に、根拠となる教材や資料を選択できるようにする。  ＜役割分担を明確にした話し合い活動＞  ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。  ・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。  ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認する。  〔象〕黒板の意見を書き出す場所をメリット・デメリットごとに区画分けして、比較しやすくする。  《Ｂ》地理的な用語や一般語で意味の分からないものは、ＩＣＴ機器等を用いて調べるよう指導する。  《Ｃ》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。  単元の中心的な問いに対する考えのまとめの例  　ＥＵの統合は、ヨーロッパの人々がそれぞれ別の国として機能していた当時よりも「より安定した生活」と「自国の発展」を求めた結果であると考える。  地域は、それぞれの地理的な条件に基づき、文化や宗教、農業や工業などが発展してきた。ＥＵとしての統合を考えたとき、どの地域にもメリットとデメリットが存在することが分かった。ヨーロッパの人々は、ＥＵとして統合することの是非や、自国の加盟や脱退について考えたとき、このメリットとデメリットについて考えているのだと思う。  《Ｂ》まとめに記載する語句は、できるだけ漢語で書くよう、机間指導で個別に指導する。  《Ｃ》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。 | イ②  これまでの学習を基に、中心的な問いに対する自分の考えをまとめている  （ノート）  ア②  ＥＵの将来像について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察しようとしている。  (ノート) |